

教師の明確な意図



道徳科の授業づくりで大切なことは何ですか？

道徳科の授業づくりでは、
教師の明確な意図を持つことが大切です。



教師の明確な意図とは
児童生徒に考えさせたい内容を
明らかにした**指導の方向性**のこと

内容項目の理解，児童生徒の実態把握，教材の活用の3点から
教師の明確な意図を持ちましょう。

教師の明確な意図の例 中学校 卒業文集最後の二行（文部科学省 わたしたちの道徳中学校）「D-(11) 公正，公平，社会正義」

✓ 内容項目「公正,公平,社会正義」の理解

正義と公正さを重んじ、誰に対しても公平に接し、差別や偏見のない社会の実現に努めること。

→ **差別や偏見のない社会を実現する大切さに気付かせたい。**

✓ 児童生徒の実態把握

いじめをしてはいけないと分かっているが、ダメなことをダメと言えない等、公正，公平な社会の実現に消極的な生徒が多い。

→ **道徳的実践意欲と態度を育てたい。**

✓ 教材の活用

小学6年生の女の子が、服が汚いという理由で同級生からいじめの標的にされる。女の子は卒業文集最後の二行に、いじめに対する思いを込めた。

→ **卒業文集最後の二行「・・・私が一番欲しいのは母でもなく、本当のお友達です。そして、きれいなお洋服です」に込められた、いじめに対する思いについて考えさせたい。**

教師の明確な意図

いじめられていた女の子の心の痛みに共感させることで、いじめを許さない心について考えさせる。

「卒業文集最後の二行にはどのような思いが込められているか」を中心となる発問に設定する。いじめの被害者，加害者それぞれの立場でいじめについて多面的・多角的に考えさせる。

参考文献

[1]	道徳教育編集部：道徳教育	2016年	9月号	p68 - 70	明治図書
[2]	道徳教育編集部：道徳教育	2016年	10月号	p68 - 70	明治図書